

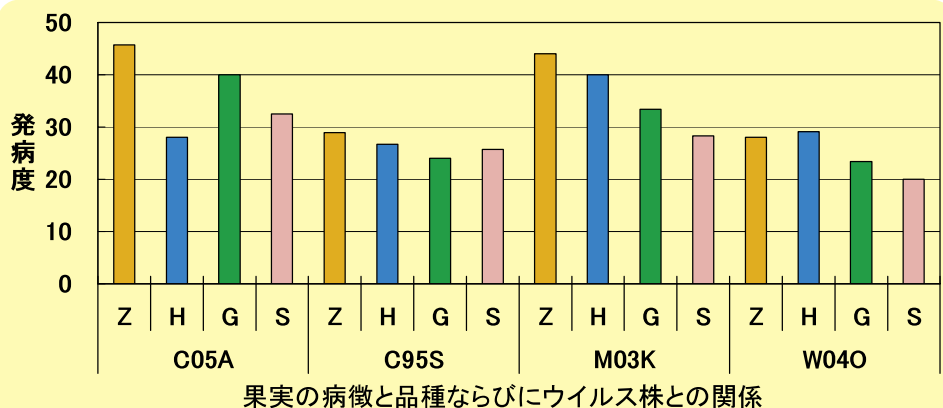
農業技術センターニュース

		目次			
	黄化えそ病によるキュウリ果実の被害	… 1		グリーンアスパラガスに対する消費者評価	… 4
	高知県におけるミナミキイロアザミウマの薬剤感受性	… 2		ブルースター電照栽培における蛍光灯の利用	… 5
	「高知ナス」新品種「土佐鷹」の促成栽培	… 3		雨よけハウス後作利用スナップエンドウの適品種	… 6

黄化えそ病によるキュウリ果実の被害



黄化えそ病による
キュウリ果実の被害



Z: ZQ-7、H: ハイグリーン21、G: グリーンラックス2、S: シャープ1
 C05A: 2005年にキュウリから分離したウイルス株
 C95S: 1995年にキュウリから分離したウイルス株
 M03K: 2003年にメロンから分離したウイルス株
 W04O: 2004年にスイカから分離したウイルス株

発病度 = $\frac{\sum (\text{発病指数} \times \text{果実数})}{5 \times \text{調査果実数}} \times 100$
 (発病指数)
 0: 無病徴、1: 果実の一部にごく少数の退緑斑点、
 2: 果実の一部に退緑斑点、3: 果実全面に退緑斑点あるいは軽い奇形
 4: 軽いモザイクあるいは明瞭な奇形、5: 激しいモザイクあるいは激しい奇形

キュウリ黄化えそ病は、1995年に高知県で初めて発見され、現在では県内外のキュウリ産地に蔓延して大きな被害をもたらしています。初発生確認当時は、葉が激しく発病しても果実には目立った病徴が現れないことが一般的でしたが、最近では果実にも激しいモザイクや奇形を生じることが多く、被害の様相は大きく変化しています。そこで、農業技術センターでは黄化えそ病の被害軽減を図るため、キュウリの果実が激しく発病する要因を調べています。

分離時期が異なる4つのウイルス株をキュウリ4品種に接種し、果実の病徴を比較したところ、ウイルス株や品種によって病徴に

多少の違いが認められました。また、県内での初発確認時に分離した古いウイルス株（C95S）と当時の主要品種「シャープ1」との組み合わせでも、果実に病徴が発生することがわかりました（図）。一方、ウイルスの感染時期と果実の病徴との関係を調べたところ、生育初期に感染した場合よりもやや遅れて感染した方が、激しく発病する場合があります（データ省略）。このように、果実の病徴には品種、ウイルス株、感染時期などの要因が複雑に関係している可能性があり、現在これらの関係についてさらに詳しく調査を続けています。
 (病理担当 竹内繁治 088-863-4915)